

40代 男性 H26.11.1～H27.1.24

最強クラスのステロイドですら歯が立たない30年来のアトピー性皮膚炎に伴う結節性痒疹が、

バチルス入浴療法であっさり普通肌へ戻りました。驚くべき効果です。

生後まもなく小児喘息と共に肌の痒みがひどく、フルコート等のストロングタイプのステロイド軟膏を常時使用。高校生の時期に漢方を併用した後から全身に結節性痒疹が生じて慢性化してしまい、強いそう痒を伴うようになった。様々な一般病院を受診し、最強クラスのステロイド外用を使用しても改善がなかった。

23歳の時、強酸性浴と亜鉛化軟膏治療で脱ステロイドを試みるも、リバウンドでアトピー性皮膚炎・結節性痒疹が一層悪化し、ステロイド治療に戻った。その後も様々な治療を試みたがステロイド外用継続を余儀なくされ、皮膚は角化を伴い厚くなっていった。当院を受診されるまでの2年間は、ステロイドと温泉療法を行うも感染による強い痒みと皮膚のただれが起こっていたインターネットで自然療法の当院を知り、入院となった。

入院後はバチルス入浴等の非ステロイド療法のみ行った。皮膚炎はやや悪化するも、バチルス入浴療法1ヶ月で皮膚炎の指標であるTARCは6088→1547まで低下し、好酸球の値も13.6%→6.5%の1/2に減少。30年近く悩まされていた、治療困難の全身の結節性痒疹もバチルス入浴療法で奇跡的に消失した。

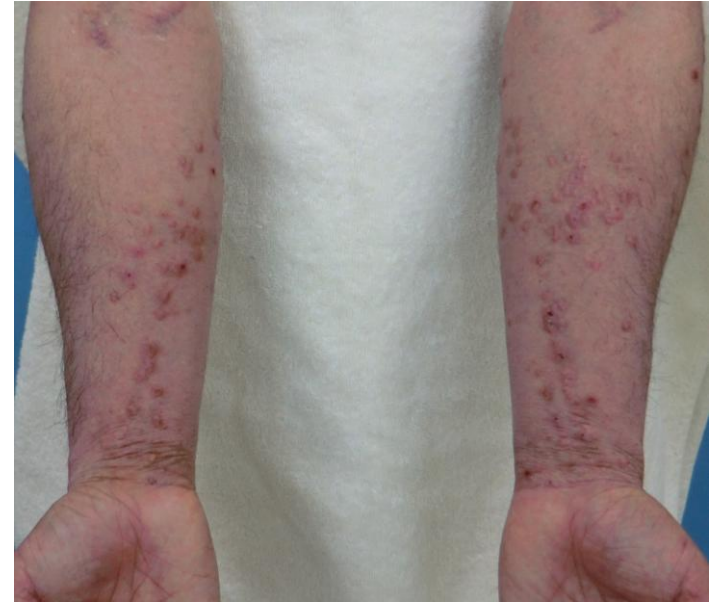
長年のステロイド外用で硬化し、ゴワゴワしていた皮膚も普通肌の柔らかさを取り戻した。

結節性痒疹は治療困難であり、バチルス入浴の自然治癒力を引き出す能力はすさまじさに目をみはる。

この患者さんはアトピー特有のTh2タイプ免疫以外に、痒疹を作り出したTh1タイプの過剰免疫も作用していたと思われるが、なぜか両免疫異常がともにレギュレトリー（調整）されている。生物多様性環境が作り出す自然状態への調整作用だ。退院後も自宅でバチルス入浴療法を継続している。

| | 基準値 | 2014/11/4 | 2014/12/1 | 2015/1/5 | 2015/1/19 |
|---------------------|-----------------|-----------|-----------|----------|-----------|
| TARC | 450 以下 | 6088 | 1547 | 1090 | 1221 |
| LDH | 120～245 | 386 | 216 | 192 | 194 |
| IgE | 170 以下 | 5996 | 3996 | 3603 | 2910 |
| 好酸球 | 7%以下 | 13.6% | 6.5% | 4.2% | 6.3% |
| POEM(自覚症) (0～28) | 最重症者 (20～28) | 21 | 11 | 13 | 10 |

2014/11/1



2015/1/19

